

令和3年度入学生用 カリキュラムチェックリスト
 《総合科学部 社会総合科学科 心身健康コース》

・ディプロマポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名	ディプロマポリシー						科目の教育目標
	【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】	【4. 総合的な学習経験と創造的思考力】	
	心理学、スポーツ健康科学の複眼的な視野をもって行動科学の幅広い知識を修得し、人間の心と身体の健康やQOLの向上を追求するアプローチを理解している。	(1) 複雑化する地域住民の健康課題に対して、論理的に理解し表現できる能力、対人関係におけるコミュニケーション能力、読解できるプレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 国際共通言語として英語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。	(3) 人間の健康課題に関して科学的かつ論理的に分析・判断し、予防・改善アプローチを実践できる。	(1) 健全な倫理観と責任感、自律した学び、地域の支援活動に関わる行動力を身につけている。	(2) 人間の健康や幸福(well-being)を維持する技能や生活の中で健康課題を解決する能力を身につけている。	心と身体の健康科学の複眼的思考力を基盤として、自ら考え行動する力を備え、多様な健康関連のステークホルダーとともに協調・協働し、個人の健康生活に留まらず、職場や地域社会において持続可能な健康環境を支える指導的人材として社会に貢献できる。
教養科目群	歴史と文化		○				人間、文化、社会、自然に関わる幅広い学問領域から、「もの考え方・捉え方」を学び、様々な知見を自らの分野に援用し、応用できる感性・知性の修得を目指す。
	人間と生命	◎	○	○	○	○	人間の思考・行動と身体・生命に関わる科学的・倫理的課題についての思考を深める。 生命についての基礎的な知識を得て、生命に関わる問題への適切な判断や生命倫理、倫理的であることの意味などの根元的な問を思索することをテーマとし、科学リテラシーと人間・生命の理解を統合的に考える。 人文科学分野(哲学、倫理学など)、行動科学分野(心理学、教育学など)、生命科学分野(生物学、生命科学など)を含む複合的な分野を学ぶ。
	生活と社会	○	○	○			社会の現象の理解、人間の集団の特性、社会の成り立ち、それを律する法律、社会を動かしている経済、政治、国際的関わりなどについての理解を深める。 社会科学分野(法学、政治学、経済学、経営学、社会学など)を中心として、医学分野、工学・技術分野などへ視野を広げる。
	自然と技術	○		○			自然の構造や成り立ち、物質の反応の有様、現象のあり方と科学技術の進歩について理解し、さらには科学技術の社会生活への影響などについて考える。 技術が社会を動かす時代において、技術の基盤、自然についての理解、技術と環境との調和など幅広く科学リテラシーを身につける。 自然科学に工学、医学、歯学、薬学等の応用的な分野を含めることで、現代的な課題を広く学ぶ。
	ウェルネス総合演習	◎	○	○	○	○	健康で生きがいと人間性に満ちた心身の健全性を意味する「ウェルネス」について、スポーツ、生活科学、文化をテーマにした講義と演習、実習により総合的に学び、考える。
	現代社会の諸問題を学び、それらの課題を主体的に捉える態度を身につける。						
創成科学科目群	グローバル科目		◎				異なる価値観や文化を知り、それらを認め合い、さらに積極的なコミュニケーションを図るグローバル人材として必要なことを学ぶ。
	イノベーション科目			○		○	さまざまな領域における創造的思考と、それを実現するための「ものづくり、ことづくり」や「協働推進・プロジェクト推進」のための技法を学ぶ。
	地域科学科目		◎			○	地域問題を、自らの課題として受け止められる公共の精神と、地域における組織人として必要な資質を得ることを目指し、地域創生、地域貢献の意義などの体験的学習も含めて学ぶ。
基礎科目群	SIH道場	○	◎	○	◎		大学での専門分野を学ぶ前提となる基礎学力を修得する。 専門分野の早期体験、ラーニングスキルの習得、学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につけることなどを学ぶ。
	情報科学	○	○	○			情報の取り扱いやその倫理などの情報リテラシーの基本に加え、コンピュータの活用方法を学ぶ。 数値・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。
外国語科目群	英語		○	◎			英語や初修外国語の学習を通じて、各言語の運用能力を養成し、日本語とは異なる言語の世界への理解を深めることを目指す。 基礎英語力及び英語コミュニケーション力を養い、十分な言語運用力と自律学習スキルを取得する。 基礎英語は、高校までに身につけた英語力の充実に回り、大学で自律的に学習を続けるための基礎力をつくる。 主題別英語は、科学・時事・文学・文化などのコンテンツを英語で学び、基礎英語で身につけた英語力と自律学習スキルのさらなる向上を図る。 発信型英語は、自信を持って、英語でコミュニケーションをするための話す力と書く力を身につける。
	初修外国語			◎			英語と異なる外国語の運用能力の基礎を固め、その言語の世界における物事の見方や考え方に對する理解を深める。
総合科学入門講座		○			○		日本語で論理的な文章を書く能力の基礎を身につける。 情報リテラシーを身につける。 総合科学部で行っている幅広い研究の一端を知る。 留学その他の学習プログラムについて理解する。

科目名		ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】			【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】			【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】		
		心理学、スポーツ健康科学の複眼的な視野をもって行動科学の幅広い知識を修得し、人間の心と身体の健康やQOLの向上を追求するアプローチを理解している。			(1) 複雑化する地域住民の健康課題に対して、論理的に理解し表現できる能力、対人関係におけるコミュニケーション能力、説得できるプレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 国際共通言語として英語の基本的運用能力とそれに基づき国際感覚を身につけている。	(3) 人間の健康課題に関して科学的かつ論理的に分析・判断し、予防・改善アプローチを実践できる。	(1) 健全な倫理観と責任感、自律した学び、地域の支援活動に関わる行動力を身につけている。	(2) 人間の健康や幸福(well-being)を維持する技能や生活の中で健康課題を解決する能力を身につけている。	心と身体の健康科学の複眼的思考力を基礎として、自ら考え行動する力を備え、多様な健康関連のステークホルダーとともに協調・協働し、個人や地域社会において持続可能な健康環境を支える指導的人材として社会に貢献できる。					
学部共通科目	科学論									○					<ul style="list-style-type: none"> ・文化・社会と自然との関わりについての理解 ・専門的知識を体系的に理解できる能力の育成 ・論理的思考力の養成 ・日本語の論理的文章を理解できる能力の養成 ・日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成 ・情報リテラシーの養成 ・豊かな人間性の涵養 ・高い倫理観の涵養 ・自分で問題を発見しようとする態度の養成
	情報処理基礎論				○		◎								<p>現代の情報化社会を生きていく上で、さまざまなデータを分析したり、ソフトウェアを取ったりする機会はますます増えている。諸君がどの専門研究分野に進むにせよ、方法や程度は違っても情報処理の重要性は変わることがない。客観的なデータに基づいた検証は、科学における認識の基礎である。また、諸君が卒業後に専門的職業人として活躍するのは、情報処理を避けて通れない。定型的な日常業務はもちろんだが、重要な意思決定シーンでデータに基づいた確かな判断を求められることは多いだろう。総合科学部では、こうした情報リテラシーをステップごとに身につけるため、体系的なカリキュラムを提供している。学部共通科目「情報処理基礎論」は、そのプラットフォームと位置づけられる科目である。この授業では講義と実習を通じて、統計学に関する基礎的な知識を学び、データ分析のための実践的な技能を身につけることができる。</p>
	総合科学の基礎A				◎		○						○		<p>現代日本語の基本的な読み(構造)とその適切な運用について理解することを到達目標とする。日本語を母語とする者としての最低限必要な知識(音声・文法・語彙など)とその具体的な運用を実践的に学び、高めていく。</p>
	総合科学の基礎B				○										<p>文化とは何かを認識し、文化現象を分析する様々のアプローチについてことについて学ぶ。さらに文化の表現の諸相にも触れることによって、文化を研究するための基礎能力を獲得する。</p>
	総合科学の基礎C				○										<p>人文科学(哲学)に関する幅広い知識の理解を目標とする。 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする。</p>
	総合科学の基礎D				◎			○				○	◎		<p>スポーツ健康科学における各領域の研究課題について理解する。</p>
	総合科学の基礎E				◎	○		○				○	◎		<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学に関する基礎的な学術的知識を修得している。 2. 地域住民の健康増進との関連において、心理学の基礎的な学術的知識を修得している。
	総合科学の基礎F										○				<ol style="list-style-type: none"> 1. 公共政策の理念と制度体系を説明できる。 2. 公共政策学の現代的実態と課題を説明できる。
	総合科学の基礎G										○				<p>ミクロ経済学の理論的な考え方の習得と基本事項を厳密に把握し理解する。</p>
	総合科学の基礎H										○				<p>高校までに社会学を学んだ人はほとんどいないだろう。そうした人たちにに対して、社会的な思考法を教えることがこの講義の目的となる。身近なところで起こっている社会現象が、どのようなしくみでなっているのか、それを意識的に考えようという事で社会学のものの見方を身につけることを目標とする。</p>
	総合科学の基礎J				◎			○	◎		○				<ol style="list-style-type: none"> ①SDGsの内容の理解 ②SDGsの取り組みが地域資源の再発見やイノベーション加速にもたらす効果の理解 ③SDGsの理解が基礎となったイノベティブなまちづくりへの応用/実践カへの接近
	Academic English I							◎							<p>English for Global Purposesをテーマとして、日本文化及び日本時事を扱う英語の文章を学習の中で、高等学校で学んできた英語のルール(英文法・文型の基本など)と単語熟語力を再確認し、英語を読む力と多少早いスピードで読解力を定着させる。また、英語で「日本」を考え、理解し、既存の英語力で発信できるようにする。</p>
	Academic English II							◎							<ol style="list-style-type: none"> (1)英語で行われる大学の授業に必要な英語の基礎技能を習得する。 (2)英語の資料を読み、基本的なレベルの英語のレポートを書き、英語でプレゼンテーションができる。
	Extensive Reading							◎							<p>eラーニングを利用した、英語多読及び語彙構築プログラムでの学習を通じて、4000語以上の単語力・読解力を到達目標とする。継続的自律学習で英語力の維持及び向上をはかる。</p>

科目名		ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】			【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】			【4. 総合的な学習経験と創造的思考力】			科目の教育目標
		心理学、スポーツ健康科学の複眼的な視野をもって行動科学の幅広い知識を修得し、人間の心と身体の健康やQOLの向上を追求するアプローチを理解している。	(1) 複雑化する地域住民の健康課題に対して、論理的に理解し表現できる能力、対人関係におけるコミュニケーション能力、説得できるプレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 国際共通言語としての英語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。	(3) 人間の健康課題に関する科学的かつ論理的に分析・判断し、予防・改善アプローチを実践できる。	(1) 健全な倫理観と責任感、自律した学び、地域の支援活動に関わる行動力を身につけている。	(2) 人間の健康や幸福(well-being)を維持する技能や生活の中で健康課題を解決する能力を身につけている。	心と身体の健康科学の複眼的思考力を基礎として、自ら考え行動する力を備え、多様な健康関連のステークホルダーとともに協調・協働し、個人の健康生活に留まらず、職場や地域社会において持続可能な健康環境を支える指導的人材として社会に貢献できる。								
実践学習科目	キャリアプラン入門														大学の現実と課題を各自が理解し、大学における真摯な学び(広い教養と専門的力の養成)の重要性を自覚し、今後4年間の学習計画を立てることによって、卒業後も自律・自立して学習できる姿勢を身に着ける。	
	課題発見セミナー	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1 臨床心理学・健康心理学・社会心理学に関する社会的課題を見つけ出すことができる 2 自らの意見・考えを正しく文章化する能力を身につける 3 プレゼンテーション能力を習得する	
	キャリアプラン														1) 自己理解を深め、将来ビジョンができるだけ具体的に描ける。 2) 将来ビジョンと現状の差異(課題)を把握し、その解決に取り組むための行動計画が策定でき、具体的な行動を始めることができる。 3) 行動する上での課題解決力や人間関係の形成について理解する。	
	短期インターンシップ														①事前学習により、社会人として必要な知識を理解し、社会人、職業人として幅広い行動がとれる。②学外研修や実習テーマの内容を理解するとともに、課題解決に努め、これらの内容を報告書にまとめる能力を養う。	
	実践力養成型インターンシップ														徳島県内の企業・団体が抱える課題に対して、受入先と学生が協働してミッションの達成を目指す、実践型のインターンシッププログラムにより、社会人としての素養(職業人意識)やコミュニケーション力を磨く。	
	総合科学実践講義A														国際的感覚を涵養し、総合的な文化研究を身につけること。	
	総合科学実践講義B		◎												1. 心身の健康に関する基礎知識(医学的知識を含む)を身につける。 2. 医療・産業・福祉などの多様なフィールドに関する知識を身につける。 3. 地域社会で活躍する能力の育成、それらの問題に対してどのような対応がなされているかを知る。	
	総合科学実践講義C														日本の経営の実態、及びグローバル化への企業の対応についての基本的な知識を修得している。	
	総合科学実践講義D														メディアと芸術を用いた表現と地域活性化事例の理解。	
	総合科学実践講義E														具体的な地域問題が発生する仕組みを社会構造・文化構造との関連で把握することができる。 地域社会の特質を人文・社会・自然科学を総合して把握できる。	
	総合科学実践講義F														Students in this course will have experience using English to describe orally and in writing their own opinions and experiences as well as commenting on the experiences and viewpoints of others. Oral presentation exercises make students more comfortable in public speaking. Students increase confidence in their foreign language ability by taking a course offered entirely in English by a non-Japanese instructor.	
	総合科学実践プロジェクトA														地域や国内外において日本語の支援を必要とする日本語学習者の現状を知り、そこに可能な日本語による支援を考え、実践する。 日本語による支援の実践を通じて、多文化共生、異文化に対する理解を深める。	
	総合科学実践プロジェクトB														サマースクールプログラムに参加することで、実践的な語学運用能力を高め、同時に国際交流プログラムの運営と実施によって、マネージメント、コーディネート、リーダーシップの能力を身に付ける。	
	総合科学実践プロジェクトC		◎												・自分の意見(感じた事や考えたこと)を自分の言葉で表現できる ・運営体験および観戦者調査を活かした企画をみんなで協力してプレゼンすることができる ・スポーツの社会的機能(役割)について理解することができる	
	総合科学実践プロジェクトD		◎												1.地域における「心と身体の健康問題」を知る。 2.地域における「健康社会づくり」を実践していくための基礎的知見を修得する。 3.地域における「支援の在り方」について提案できる。	
	総合科学実践プロジェクトE														1 国際交流、国際協力について基本的な知識を得る。 2 広い視野、国際的な視野を持つ。 3 行動力・積極性を身につける。 4 社会性・対人関係力を身につける。	
総合科学実践プロジェクトF														1. 地域の課題を発見できる 2. 課題を解決するための政策をつくらることができる 3. 政策を提案(プレゼンテーション)できる		

科目名		ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 総合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標		
		心理学、スポーツ健康科学の複眼的な視野をもって行動科学の幅広い知識を修得し、人間の心と身体を追求するアプローチを理解している。	(1) 複雑化する地域性のある健康課題に対して、論理的に理解し表現できる能力、対人関係におけるコミュニケーション能力、読解できるプレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 国際共通言語として英語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。	(3) 人間の健康課題に関して科学的かつ論理的に分析・判断し、予防・改善アプローチを実践できる。	(1) 健全な倫理観と責任感、自律した学び、地域の支援活動に関わる行動力を身につけている。	(2) 人間の健康や幸福(well-being)を維持する技能や生活の中で健康課題を解決する能力を身につけている。		心と身体を健康科学の複眼的思考力を基礎として、自ら考え行動する力を備え、多様な健康関連のステークホルダーとともに協調・協働し、個人の健康生活に留まらず、職場や地域社会において持続可能な健康環境を支える指導的人材として社会に貢献できる。	
総合科学実践プロジェクト	総合科学実践プロジェクトG				○			地域を理解しその場や状況に相応しい作品制作展示ができる。		
	総合科学実践プロジェクトH					○		実地調査の基礎を学ぶことを通じて、自ら研究に必要な素材・視点を探してそれをもとにレポートをまとめる能力をつけるようになる。		
	総合科学実践プロジェクトJ		○	◎			○	・外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。 ・グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・ ・コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。		
コース入門科目	コース入門講座	○	◎		○		○	・自らの学びの経験知にもとづいてコースにおける知の探究力を養うための学習目標を設定する ・心身健康をテーマとした基礎学力とコミュニケーションスキルを身につける		
	心身行動研究法(心理学研究法)	○	○		◎	○	○	グループとして、研究目的に適したデータ収集法を用いる研究計画の立案・実施を行なうことが出来る。その際、得られたデータの信頼性と妥当性に関する検証を行なうとともに、適切な分析方法を用いて統計処理を行ない、結果の整理・考察・報告を効果的に行なうための基本的な技能を身につける。		
	健康教育学	◎	○		◎		○	1. 健康問題を学際的に理解し、問題解決能力を向上する。 2. 人間科学に関わる幅広い知識を理解する。 3. 生活環境の創造へ貢献する。		
	健康科学の基礎	◎			◎		○	健康科学に関わる幅広い知識を体系的に理解するとともに、健康社会学と医学の分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の健康問題や地域課題を的確に理解することができる。(知識・理解)		
	健康体力科学の展開(運動学(運動方法学を含む))	◎			◎		○	1 健康と体力の基本的な知識を修得している 2 健康と体力の問題に関連する生理科学・運動科学の諸論見を修得している 3 人間生活における健康体力の意義を理解できる		
	発達心理学		◎				○	◎	1. 心身の健康と関わる心理学における生涯発達心理学の位置づけが説明できる。 2. 各発達段階の特徴を説明できる。 3. 現代社会における問題と生涯発達心理学との関係を説明できる。	
	臨床心理学概論	◎			○	○	○	◎	①臨床心理学の基本的な理論や技法を理解し、心の基本的な仕組みや働きについて概説できること。②心理的支援が行われている様々な領域について、具体的なイメージができることを目標とします。	
	神経・生理心理学			○			○		・脳と心の関係について、基礎的な知識を修得している。 ・感覚・知覚・記憶・認知の生理学的基礎に関するこれまでの知見を修得している。 ・これまでの生理学的研究法や、最新の研究法について理解できる。	
	心理学概論						○	○	◎	1. 公認心理師養成での本科目の位置づけが理解できる。 2. 心理学の成り立ちがわかる。 3. 人の心の基本的な仕組み及び働きを理解する。
	障害者・障害児心理学	○	○		○	○	◎	◎	1.様々な障害の定義(概念)を学び、説明することができる。 2.障害児(者)の抱える心理社会的問題について理解し、支援の実践について知る。 3.障害児(者)への支援に関して、新たな提案をすることができる。	
	教育・学校心理学	○				○	○	○	本科目は、公認心理師養成に必要な科目である。教育現場において生じる問題とその背景を知り、教育現場における心理社会的課題についての幅広い知識を得、心身の健康やQOLの向上などに必要な支援を知る。	
	心理学実験A			○		○		○	本科目は、公認心理師養成に必要な科目である。心理学実験の計画立案、統計に関する基礎的な知識を身につける。	
	コーチング論	◎	○		◎	◎		◎	コーチングの役割について理解する。 コーチングを行う上で必要な知見を理解する。 コーチに必要な豊かな人間性、高い倫理観を身につける。 対象別の指導上の留意点について理解する。 地域社会で活躍する能力を修得する。	

科目名		ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】			【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】			【4. 総合的な学習経験と創造的思考力】		
		心理学、スポーツ健康科学の複眼的な視野をもって行動科学の幅広い知識を修得し、人間の心と身体の健康やQOLの向上を追求するアプローチを理解している。			(1) 複雑化する地域性民の健康課題に対して、論理的に理解し表現できる能力、対人関係におけるコミュニケーション能力、説得できるプレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 国際共通言語としての英語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。	(3) 人間の健康課題に科学的かつ論理的に分析・判断し、予防・改善アプローチを実践できる。	(1) 健全な倫理観と責任感、自律した学び、地域の支援活動に関わる行動力を持つことができる。	(2) 人間の健康や幸福(well-being)を維持する技能や生活の中で健康課題を解決する能力を身につけている。	心と身体の健康科学の複眼的思考力を基礎として、自ら考え行動する力を備え、多様な健康関連のステークホルダーとともに協調・協働し、個人の健康生活に留まらず、職場や地域社会において持続可能な健康環境を支える指導的人材として社会に貢献できる。	科目の教育目標				
	スポーツ心理学	◎	○			○	○				◎	1. 体育・スポーツ及び身体活動が心身にどのような影響を与えるか理解する 2. スポーツ場面特有の心理現象について理解し、その対処方法について考える 3. 人間の“からだところ”の関係について理解を深める			
	学習・言語心理学	◎	◎			○	○				◎	1 学生はヒトを含む動物の行動が変容する過程を理解している。 2 学生はヒトが言語を習得するメカニズムを理解している。			
	行動統計学(心理学統計法)	○	○			◎					○	2. 汎用的技能 (3) 人間の健康課題に関して科学的かつ論理的に分析・判断し、予防・改善アプローチを実践できる。 収集したデータの測定レベルや型に適し、且つ、分析の目的にあった統計手法が選択でき、正確な計算により得られた結果が正しく解釈できる。			
	運動生理学	◎				○					◎	1 生体の持つ様々な機能およびその調節機構を修得している 2 身体の構造、エネルギー機構、呼吸循環機能、中枢神経機能といった生理学の基礎を修得している 3 身体の諸機能と運動との関連、健康づくりとの関連、身体機能の測定評価方法について理解し、様々な運動の経験を日常生活の中で、健康づくりに応用することができる			
	知覚・認知心理学	◎				○					◎	知覚・認知心理学の知識を身につける。 1. 知覚・認知心理学に関する用語を説明できる。 2. 日常の知覚・認知にまつわる現象を心理学的に説明できる。 3. 知覚・認知心理学が臨床や社会においていかに応用されているのかについて具体例を挙げる事ができ、日常の心身健康を含む課題に対する解決案を提案することができる。			
	社会・集団・家族心理学	◎									○	人間関係及び集団における人の意識及び行動についての心の過程、人の態度及び行動、家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響に関する心理学的知識を修得している。			
	スポーツ社会学	◎						◎	◎		◎	(1)スポーツ社会学における専門知識を体系的に理解するとともに、人間・健康・身体のパラメータで専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。(知識・理解) (2)多様な情報を収集・分析して適正に判断し、科学的思考性や論理的思考性のもとに、身につけた専門技能・技術とモラルに則って効果的に活用することができる。(汎用的技能)			
	スポーツ経営学	◎				○	◎	◎	◎		◎	1.実践科学としてのスポーツマネジメントに関する基礎知識の習得とその応用力を身につける			
	心理学的支援法	◎	○			◎	◎	○	○		◎	心理学的援助に関する基礎的な観点を学ぶことで、健全な倫理観にもつきながら、 ①心の健康やウェルビーイング(幸福)を維持・増進する技能、および②生活の中で健康課題を解決する能力の基礎的素養を身につけることを目標としている。			
	精神疾患とその治療		◎			◎			○		○	精神医学の現代における知見と医療全般の理解を深め、障害者への正しい認識を養う一助としたい。			
	心理学実験B	◎				◎					○	1. 基礎的心理学領域における実験の手法・知識を列挙することができる。 2. 心理学実験の計画を立案し、実施することができる。 3. 適切なデータ解析・分析ができ、専門的に考察できる。 4. 日常の心理的課題に対して、実験心理学的知見を応用しより良い解決法を導出できる。			
	応用解剖生理学	◎				○			○		○	骨格系、筋肉系、神経系の構造について説明できる。 人間の生理的機能について説明できる。 人間科学に関わる幅広い知識を理解する。			
	衛生・公衆衛生学	◎				◎			◎		○	・衛生・公衆衛生の講義を通して、健康の保持・増進を図り疾病を予防するための知識を習得する。呼吸器疾患、感染症、精神疾患などの疾病の病因に取り上げ、それぞれの疾病の病因と治療方法についての知識を習得する。 ・健康管理や健康診断の重要性とその方法を理解し、生活習慣病の予防と治療法を理解する。			
	コーチング論実習Ⅰ	◎	◎			○	◎	◎	◎		○	体づくりの運動、体づくり運動、器械運動に対する知識とスキルの習得 この授業は、体験・参加型学習を導入している			
	コーチング論実習Ⅱ	◎	○			◎	◎	◎	◎		◎	1.心身の状態をモニタリングするための知識や技術を身につける。 2.心身の状態をセルフ・コントロールするためのスキルを習得する。 3.自己理解を深め、他者や集団とのコミュニケーションについて音楽等を用いて積極的にこなうことで、適切なコーチング行動につなげる。			

科目名		ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】			【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】			【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】			科目の教育目標
		心理学、スポーツ健康科学の複眼的な視野をもって行動科学の幅広い知識を修得し、人間の心と身体への健康やQOLの向上を追求するアプローチを理解している。	(1) 複雑化する地域性のある健康課題に対して、論理的に理解し表現できる能力、対人関係におけるコミュニケーション能力、説得できるプレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 国際共通言語としての英語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。	(3) 人間の健康課題に関して科学的かつ論理的に分析・判断し、予防・改善アプローチを実践できる。	(1) 健全な倫理観と責任感、自律した学び、地域の支援活動に関わる行動力を身につけている。	(2) 人間の健康や幸福(well-being)を維持する技能や生活の中で健康課題を解決する能力を身につけている。	心と身体への健康科学の複眼的思考力を基礎として、自ら考え行動する力を備え、多様な健康関連のステークホルダーとともに協調・協働し、個人の健康生活に留まらず、職場や地域社会において持続可能な健康環境を支える指導的人材として社会に貢献できる。								
コース応用科目	コーチング論実習Ⅲ	◎	◎		○	◎	◎								走動作、跳躍動作、投動作における身体の使い方を理解する。 これらの動作を競技レベルまで高めるための練習方法と健康や体力増進という目的で実施できる能力を修得する。	
	コーチング論実習Ⅳ	○	◎												1 バasketボールの基礎的技術・技能を習得する 2 バasketボールに関連するコーディネーション能力を習得する 3 バasketボールの指導にかかわる知見を習得する	
	コーチング論実習Ⅴ	◎			◎	◎									ベースボール型スポーツの基礎技術やコーチングスキルを身につける。	
	コーチング論実習Ⅵ	◎			○	◎							◎		水中運動に必要な基礎知識を理解するとともに、水泳指導に必要な基礎泳力(具体的には4泳法を25m以上)を身につける。	
	コーチング論実習Ⅶ	○	◎											○	バレーボールの学習指導法を理解し、コーチングスキルを身につける	
	コーチング論実習Ⅷ	◎	◎			○							◎		1. コーチングする上で必要な観察法を理解する。 2. 観察によって得られた情報を取捨選択し、適切な判断力を身につける。 3. 個人および集団の活動(行動)を評価し、次のより良いコーチングに向けて積極的に議論する。	
	地域スポーツ文化論(体育史を含む)	◎	○			◎	◎	◎	◎					◎	・基本的な運動文化について知識を修得している ・運動文化に関する場づくりの技法を修得している ・障がい者スポーツの文化の特性を理解できる ・運動文化が抱える現代的な諸問題に対してその解決に向けて意欲的取り組みができる	
	スポーツ栄養学(生理学を含む)	◎				○								◎	1 各栄養素の性質と生体作用の知識を習得する 2 目的に応じた食事、エネルギー摂取の方法を習得する 3 健康づくりに関連する諸問題に対して、その解決に向けて意欲を持つことができる	
	心身健康総合演習Ⅰ	◎	○			◎	◎	◎	◎					◎	1. 人間科学に関わる幅広い知識の理解 2. 地域社会で活躍する能力の養成 3. 日本語の論理的文章を理解できる能力の養成 4. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成 5. 卒業研究に相応しいテーマについて考えること	
	心身健康総合演習Ⅱ	◎	○			◎	◎	◎	◎					◎	心身の健康増進に関連する卒業研究について、その知識とスキルを修得している。	
	感情・人格心理学	◎	○			◎								◎	1. 自己や他者に関する理解を深めるために、心理学的観点を役立てることができる。 2. 生活場面において多面的に物事を考えるために、心理学的観点を活かすことができる。	
	教育相談	◎	◎			○	◎	○	◎					◎	教育相談の意義と必要性について考え、その上で、一人一人の生徒に効果的に関与できる力を身につけることを目標とする。	
	健康・医療心理学	◎												○	健康の増進と維持、疾患の予防と治療、健康・疾病に関する原因・診断の究明、およびヘルスシステム・健康政策策定の分析と改善等に対する心理学的知識を理解できること	
	スポーツマーケティング論	◎				○	○							◎	レジャーマーケティングに関する基礎知識を理解するとともに、事業戦略について思慮できる能力を身につける。	
	救急処置法	◎	◎			○	○							◎	健康管理で必要とされる知識と応急処置の方法を習得する。	
	スポーツ科学実験実習	◎	○			◎								◎	スポーツ科学に関する基礎的な実験方法、データのまとめ方を理解する。 この授業は体験・参加型学習を導入しています。	
	ウェルネス・プロジェクト実習(武道実習を含む)		○							○	○			◎	地域アクターの実施するスポーツ推進事業や学校における運動部活動(武道)に参画し、運営補助の活動を通して、スポーツマネジメント力を身につける。	
ウェルネス・プロジェクト実習(健康増進施設実習)	○	○			◎	◎			○	○			◎	地域における企業が実施するスポーツ振興や健康体力づくり事業に参画して、アセスメント、計画、実施、評価、改善のマネジメント能力を実習を通して身につける。		

科目名		ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】			【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】			【4. 総合的な学習経験と創造的思考力】			科目の教育目標
		心理学、スポーツ健康科学の複眼的な視野をもって行動科学の幅広い知識を修得し、人間の心と身体の健康やQOLの向上を追求するアプローチを理解している。	(1) 複雑化する地域住民の健康課題に対して、論理的に理解し表現できる能力、対人関係におけるコミュニケーション能力、説得できるプレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 国際共通言語として外国語の基本的運用能力とそれに基づき国際感覚を身につけている。	(3) 人間の健康課題に関して科学的かつ論理的に分析・判断し、予防・改善アプローチを実践できる。	(1) 健全な倫理観と責任感、自律した学び、地域の支援活動に関わる行動力を身につけている。	(2) 人間の健康や幸福(well-being)を維持する技能や生活の中で健康課題を解決する能力を身につけている。	心と身体の健康科学の複眼的思考力を基礎として、自ら考え行動する力を備え、多様な健康関連のステークホルダーとともに協調・協働し、個人の健康生活に留まらず、職場や地域社会において持続可能な健康環境を支える指導的人材として社会に貢献できる。								
科目名	応用生理学	◎			○			◎		◎			◎	1 トレーニングに対する生体機能の変化についての知識を習得する 2 発育発達にともなう生体機能の変化についての知識を習得する 3 疾病予防のための運動の意義について習得する		
	福祉心理学	◎	○		○	◎	○	◎		◎			◎	福祉関連領域における心理社会的課題および支援の実践について説明することができる。		
	健康行動論	◎	○		○			◎		◎			◎	地域社会の生活環境の創造への貢献 人間科学に関わる幅広い知識の理解		
	司法・犯罪心理学	○			○	◎	◎	◎		◎			◎	司法・犯罪分野における心理学の専門的知識を習得するとともに、司法・犯罪の各分野における様々なケースや問題に対して、心理学がどのように寄与しているのかについての知識を習得する。		
	産業・組織心理学	◎	○		◎		○	◎		◎			◎	1. メンタルヘルスをはじめとした労働問題の理解・解決に必要な産業・組織心理学的知識を説明できる 2. 自他のメンタルヘルスを向上させるアプローチの計画および実施ができる 3. 社会の組織の中で、他者と協働・協調するためのコミュニケーション能力を活用できる		
	人体の構造と機能及び疾病	◎	○		◎			◎		◎			◎	1. 人体の構造とその機能、および生体の恒常性について説明できる 2. 様々な疾患について理解できる 3. 自分や他人の身心の変化を科学的に解析・考察できる		
	心理的アセスメント		○		○				◎		◎		◎	本授業は公認心理師受験資格に必要な科目である。心理に関する支援を要する者(要支援者)の問題を適切に理解するため、心理的アセスメントに関する理論と技法について理解し、心理面における健康課題に関する適切なアプローチを修得する。		
	学校保健論	◎							◎	◎			◎	1. 現代社会における学校保健の必要性と意義及び構造を理解する 2. 児童生徒の将来を見据えた健康の保持増進を図るための具体的な方策について提案できる 3. チームとしての学校における学校保健の推進について理解し、関係機関及び地域との連携方法を提案できる		
卒業研究	卒業研究	◎	◎	○	◎		◎		◎			◎	卒業論文の作成に必要な以下の点について修得し、卒業論文を作成することを目標とする。 1. 心身の健康に関わる幅広い知識を理解する 2. 健康課題に関する科学的な調査や実験等を実施し、論理的考察を行うことができる 3. 研究成果を適切にプレゼンテーションすることができる			